



パレスチナ子どものキャンペーン



レバノンでのシリア難民支援と コミュニティのレジリエンス強化

パレスチナ子どものキャンペーン（CCP）

田中好子

2015年6月19日

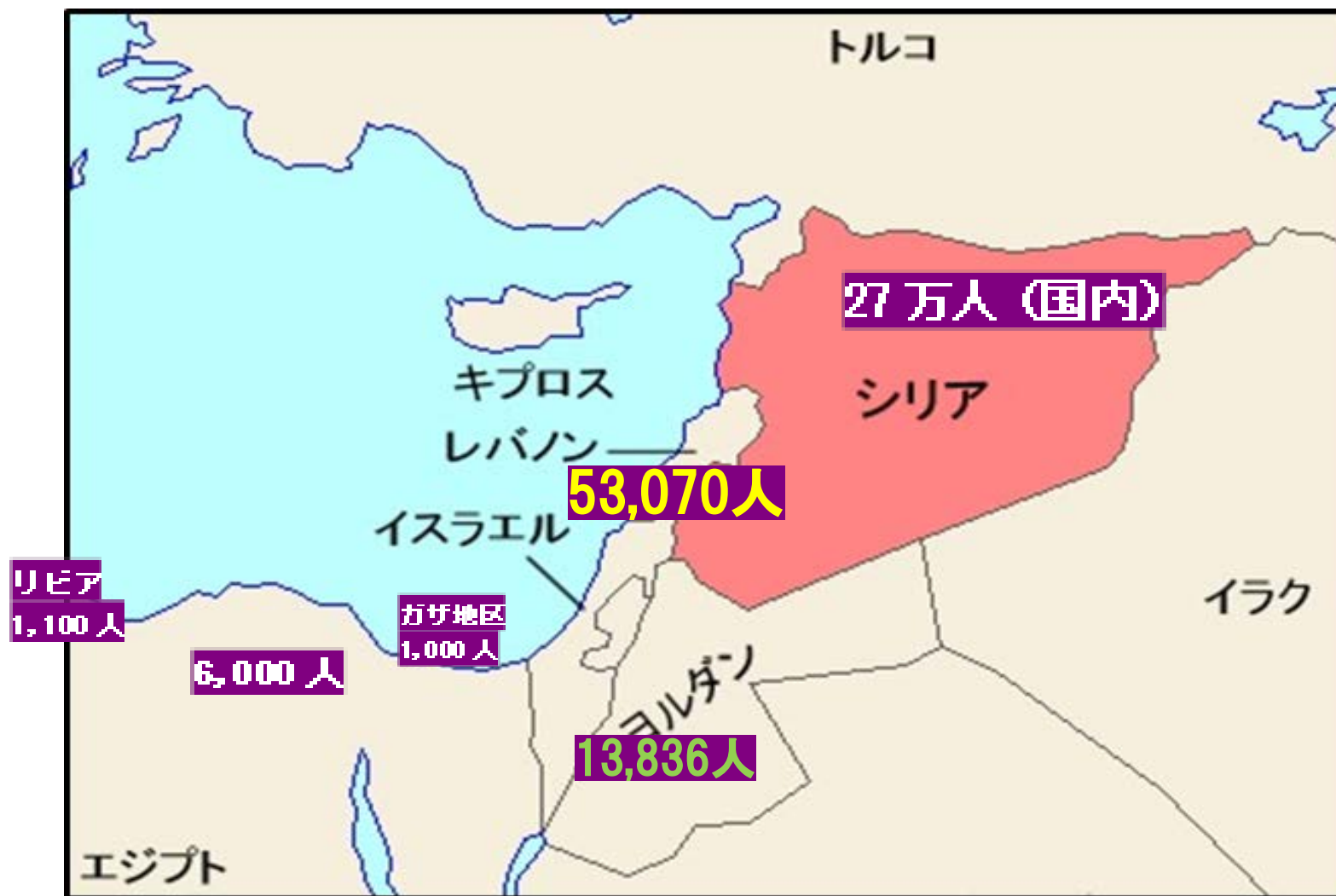


レバノンでのシリア難民問題

- シリア難民の流入は、2015年4月時点で120万人を超えた
- 人口の4人に1人が難民（人口に対する割合が最大に）
- 若年層の失業率30%超
- 2015年末に難民の67%が貧困ライン（300円/日）以下になる
- シリア難民にはシリア人とパレスチナ人(再難民)がいる
- シリア人とパレスチナ人では国連の支援が異なっている

（以降も、データは全てLCRPとUNRWAによる）

シリア難民のうち約 1 割がパレスチナ人である



数字はシリアから周辺国に避難したパレスチナ難民(国連登録数のみ)



パレスチナ子どものキャンペーン

パレスチナ難民問題とシリア難民

- アラブ諸国にはパレスチナ難民が70年以上前から住んでいる
- シリア50万人、ヨルダン100万人、レバノン30万人、自治区200万人
- レバノンに住むパレスチナ難民は、国籍も市民権もない
- 30以上の職業に就けない、不動産を持ってない
- 公立学校や公立病院にアクセスできない



シリアからのパレスチナ難民の状況

- 再難民となり、家族離散・行方不明も多い
- 女性世帯が多い(43%)
- パレスチナ人への制度的な差別
- 劣悪な住環境、経済的な困窮、物価高
- 入国制限とビザ・滞在資格の取得が困難
- 教育や医療へのアクセス不足





パレスチナ難民キャンプ

レバノンにはパレスチナ難民キャンプが10か所以上ある。
(公式のシリア難民キャンプがないために)

シリア難民がパレスチナキャンプに流入、人口倍増

- 生活物資の不足70% 食糧不足85% 一日一食45%
- 92%の世帯にPTSD症状の家族
- 3~7割の子どもが通学できない
- 1/3の子どもは長期間外出できず孤独や喪失感に苦しむ



CCPの緊急支援の概要

2015年度の予定 (2013年～ほぼ同規模)

- 物資配布 1,500世帯
- 子ども向けのイベント・活動提供など 2,000人
- 子どもの居場所提供と学習保障 600人
- 医療支援 10,000人
- 女性への支援 200人

保健支援 歯科

- 歯の健康は、自己管理と結びつく = レジリアンスの強化
- 5か所のキャンプで年に1万人近い子どもの検診と治療
- 1992年に開始した活動をシリア難民にも拡大
- 最初の10年で虫歯割合が半減





精神科と臨床心理

- 90%以上の家族にPTSDのメンバーがいる
- 精神科と心理への支援はほとんど存在しない
- 長期が予想される難民生活でのレジリアンス強化が必須
- 年間に約300人の子どもを恒常的に診療
- 南部のサイダのクリニックで、子どもを対象にした診療、子どもの精神疾患の治療も20年以上続いている



教育支援

- 3割以上の子どもが通学できない。
- キャンプ内には子どもの居場所がなく、外出もできず孤独や喪失感に苦しむ
- シリアとレバノンでは教育カリキュラムが大きく違う





教育支援 ②

- 学童・補習クラス・幼稚園で子どもの受け入れと給食提供
- イベントや遠足、ワークショップなどに子どもたちを受入れ
- 補習クラスは2000年から開始し、過去の参加者全員が義務教育を終え、80% 以上で成績向上
- 母親たちの会を定期的に行い、母親のピアサポートも

⇒ホストコミュニティとの連携、レジリエンスの強化



パレスチナ子どものキャンペーン



ベイルートマラソン参加とレジリエンス

シリアからの難民の子どもたちが、昨年秋ベイルート国際マラソンに参加しました。その過程でワークショップに継続して参加した子どもたちは自分の限界に挑戦することや助け合うことを学び、また成功体験を味わうことで大きく成長しました。

その様子は、NHK総合TV
「NEXT未来のために～
走れ 泣くのはやめて
難民キャンプのシリア人」
(2014年12月)で紹介されました。





パレスチナ子どものキャンペーン



最後に

人道支援には限りがあります。

シリア内戦を終わらせるため、

政治的な解決を実現させることが最も重要です。

